

TPP交渉と農業改革

キャノングローバル戦略研究所研究主幹

山下 仁
やました ひと

- *牛肉は関税ゼロでも問題なし
- *カリフォルニアのコメ産業が消滅？
- *ほとんどのコメ農家は兼業農家
- *日本農業が衰退した原因
- *農作物も工業製品と見るべきだ
- *民俗学者・柳田國男の先見性
- *コメが輸出産業になる日
- *日本の農業を悪くした3つの柱
- *実は嘘だった減反廃止政策
- *農業の衰退とは逆に繁栄してきた農協



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

今日は山下先生においでいただきました。山下さんは東大の法学部を出られた後、農水省に入省されて、ミシガン大学に留学。その後、ガット室長とか、EUの代表部であるとか、OECDの農業委員会とかといったところで国際的な経験を豊富にお持ちです。ということは農水省の中ではちょっと異端のほうになるのかもしれないですね。そういうことで9年前に退官され、その後、1年置いてキャノングローバル戦略研究所に移り、現在、研究主幹をされております。農業の本質的な改革をどうするかという議論を本当に知識を持ってできる人はなかなかないもので、私もちょっと講師を探しあぐねていたわけですが、幸い山下先生に来ていた

くことになりましたので、今日は皆さん、いろいろ疑問のある農業問題についてじっくりお話を伺えると思います。

それでは山下先生、よろしくお願いいたします。（拍手）

牛肉は関税ゼロでも問題なし

山下 山下です。よろしくお願ひします。

今日は農水省の正式な見解とはまったく異なる見解をお話しさせていただきたいというふうにあります。

まず、TPPの話なんですけれども、自由貿易協定というのは基本的に2国間でお互いの関税を撤廃するとか、そういうことを議論している協定だったんですけれども、今はメガFTA